

◆令和6年度第1回幼保小接続推進研修会◆

◆令和5・6年度幼保小接続推進リーダー育成事業(令和6年度事業)研修会◆

鳥取県の幼保小連携・ 接続の現状及び方向性



令和6年7月30日(月)

趣 旨

小学校等の教職員及び幼稚園教諭、保育教諭、保育士等が子どもの発達段階に応じた教育・保育内容について共通理解したり、「幼児の終わりまでに育てほしい姿」を踏まえた教育実践等について考えたりすることにより、幼保小の円滑な接続に向けた幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校・義務教育学校、特別支援学校の取り組みの一層の推進、架け橋期の教育の充実を図る。

- 1 幼保小連携・接続の考え方と方向性
- 2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状
- 3 鳥取県の幼保小の連携・接続の今後に向けて

鳥取県幼保小接続
ハンドブック



幼保小接続
リーフレット



鳥取県幼児教育
応援キャラクター

鳥取県教育振興基本計画（令和6年度～10年度）～未来を拓く教育プラン～
自立して心豊かに 幸せな未来を創造する ふるさとととりの人づくり

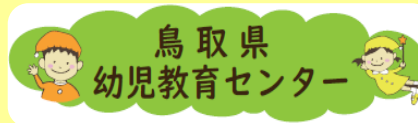


鳥取県教育のスタートライン！幼児期の教育は「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」

鳥取県幼児教育振興プログラム（第2次改訂版）

遊びきる子ども

～遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ～



- 幼児教育の拠点機能強化のため29年度に開設
- 質の高い幼児教育の全県展開

鳥取県のめざす幼児の姿 「遊びきる子ども」

「遊びきる」とは、一人一人が、**試行錯誤したり、挑戦したり**する中で、自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達と関わって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であると捉えられます。

自己充実感⇒自信

新たな遊びのイメージや見通し、エネルギーを生み出す

「遊びきる」経験が「自己肯定感」を育む

幼児期の教育と小学校教育をつなぐ

鳥取県の幼保小連携・接続

長期的な視点での各市町村・小学校区等での
実態に応じた持続可能な取組へ



Ⅰ 幼保小連携・接続の考え方と方向性

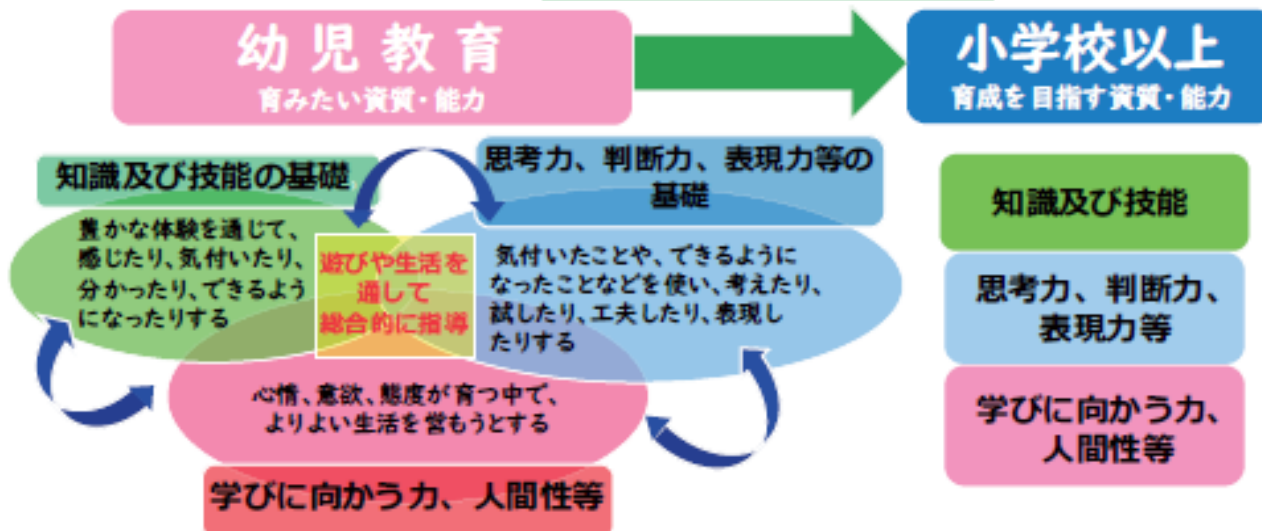
遊びを通しての総合的な指導
【5領域】



※5つの領域は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して**総合的に指導**されるものである。

「遊び」を通して育まれた **主体性**、身に付けた **資質・能力** を
小学校以降の学習や生活につなぎましょう！

資質・能力をつなぐ



「小学校学習指導要領」 総則 第2 教育課程の編成 4 学校段階等間の接続

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導
2. 生活科を中心としたスタートカリキュラムの編成

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」



健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の
芽生え

自然との関わり
・生命尊重

数量や図形、
標識や文字などへ
の関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

1 幼保小連携・接続の考え方と方向性

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて

健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かす、見過しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を感じ、自信をもって行動するようになる。



協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。



社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に関わりをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになることと、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



園で

一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくり、必要な援助を行ったりする

小学校等で

幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが各教科等の学習に円滑に接続されるよう、指導の工夫を行う

幼児期の遊びの中の「学び」は見えにくいと言われています。幼児期の「学び」の姿の可視化を図り、園と小学校等の教職員との連携や、地域・家庭等との連携のための手段のひとつとして「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」が示されました。園も小学校等もこの子どもの姿を手がかりにして、**子どもの育ちを捉え、語り合い、共有しながら、教育・保育活動に取り組むことが求められています。**

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもちようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に感じる気持ちをもって関わるようになる。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られる姿です。また、園において、発達段階に応じて、それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより見られる姿であり、同時に小学校教育の始まりの姿です。

＜留意点＞

- ☆ 方向目標であり、到達目標ではない。
- ☆ 一つずつ取り出して指導したり、評価したりするものではない。
- ☆ 全ての子どもに同じように見られるものではない。

※小学校等…小学校・義務教育学校・特別支援学校を総称しています。

「遊び」を通して育まれた **生活感**、身に付けた **健康・体力** を小学校以降の学習や生活につなげよう！

幼児期には遊びを通して、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校に入学してからは、小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。

幼保小の円滑な接続をめざす3つの「つなぐ」

- 1. 健康 体力も関係 保育所等
- 2. 遊びを通して育まれた生活感
- 3. 小学校等

「遊び」を通して育まれた生活感、身に付けた健康・体力を小学校以降の学習や生活につなげよう！

幼児期には遊びを通して、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校に入学してからは、小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。

幼保小の円滑な接続をめざす3つの「つなぐ」

- 1. 健康 体力も関係 保育所等
- 2. 遊びを通して育まれた生活感
- 3. 小学校等

「遊び」を通して育まれた生活感、身に付けた健康・体力を小学校以降の学習や生活につなげよう！

幼児期には遊びを通して、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校に入学してからは、小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。小学校生活の中で、学びたい事象に主体的に関わり、自ら行動する。

幼保小の円滑な接続をめざす3つの「つなぐ」

- 1. 健康 体力も関係 保育所等
- 2. 遊びを通して育まれた生活感
- 3. 小学校等

5歳児後半の姿であると同時に**小学校の始まりの姿**でもあります。この姿を幼保小双方が子どもの**育ちを捉える手掛かり**として共有していくことが重要です。

Ⅰ 幼保小連携・接続の考え方と方向性

幼保小の円滑な接続をめざす 3つの「つなぐ」

幼稚園
認定こども園
保育所等



小学校等



組織を
つなぐ

人を
つなぐ

教育を
つなぐ



連携

接続



園・小学校等、市町村保育担当課と
教育委員会がつながる

園児・児童・教職員・保護者
市町村担当者等がつながる

教育課程等のカリキュラム・
教育内容がつながる

円滑な連携・接続のためのポイント「3つのつなぐ」

子どもの育ちと学びをつなぐために

組織をつなぐ

- 管理職同士のつながり（連絡協議会等）
- 連携推進担当者同士のつながり
- 年間連携（交流）計画を作成
- 就学前後の引継ぎ・連絡会の実施
- 園、学校、学級だより等の送付、掲示等
- 幼保小の相互理解に向けた参観・研修等の実施

人をつなぐ

- 園児と児童、園児同士の交流
ねらいを明確にした交流
- 教職員の相互理解
保育参観・授業参観
合同研修会
保育体験・授業体験

教育をつなぐ

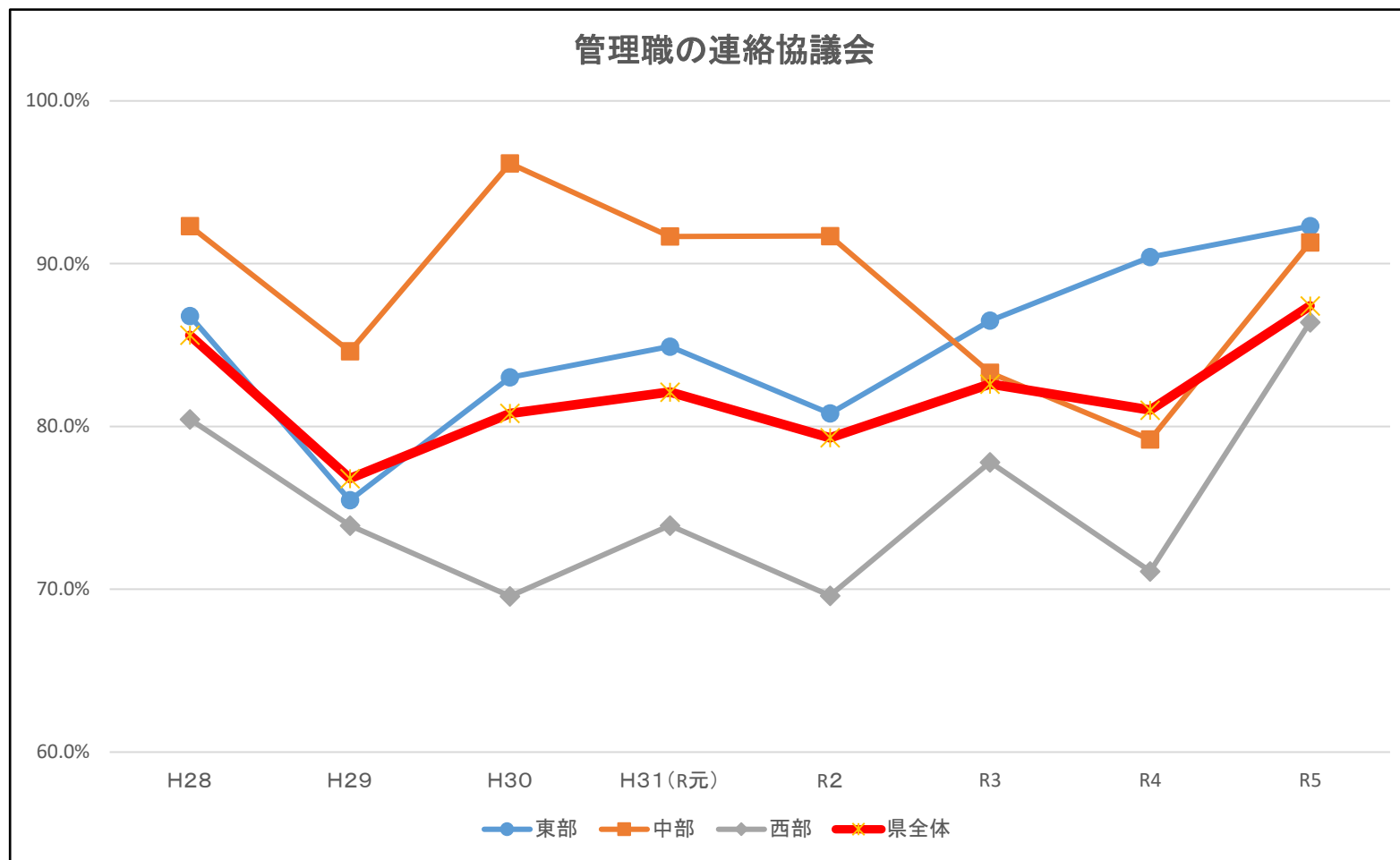
- めざす子どもの姿の共通理解
- 互いの教育内容・保育内容を理解
- つけたい力等を協議し、共通実践
- カリキュラムの編成・実践・評価・改善

連携

接続

2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

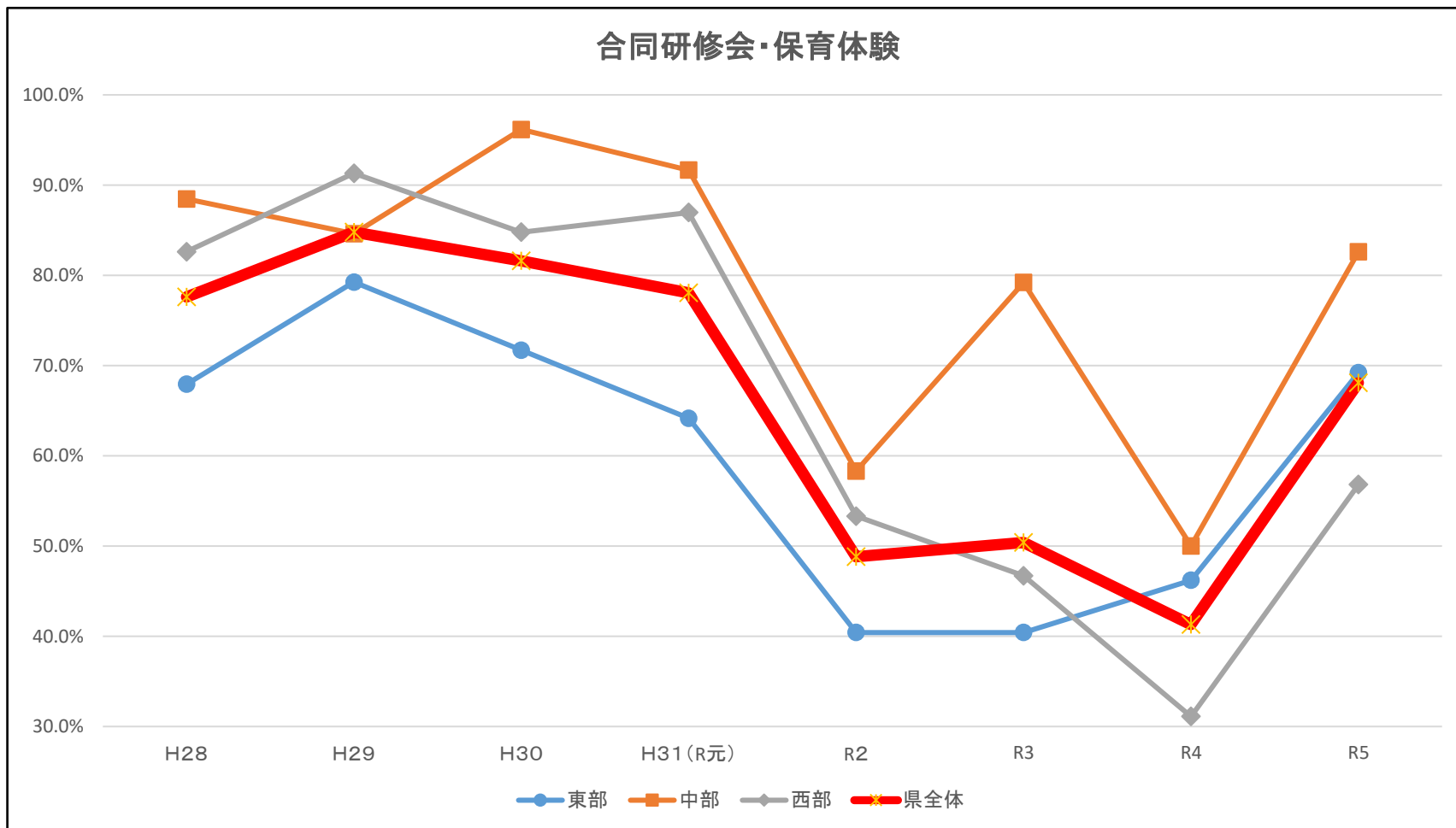
①管理職等の連絡協議会



令和5年度 学校教育実施状況調査(小学校)

2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

②合同研修会・保育体験



令和5年度 学校教育実施状況調査(小学校)

2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

幼保小接続アドバイザーを派遣しています！

幼保小接続 アドバイザー派遣

幼児期の育ちや学んでいることって伝わりにくいなあ。

見学や体験のやりっぱなしになっていて、深まらない。協議の場をもちたいけれど。

交流がマンネリ化。いつもお客さんになってしまう。どうしたらいいかな？

接続アドバイザー

～参加者の声～

派遣実績例

幼保小連携・接続に関する講演・演習・指導助言を行います。

- ・管理職による幼保小連絡協議会
- ・園児と児童の交流会や交流後の職員合同研修会
- ・接続カリキュラム編成のための研修・会議
- ・小学校等または園における保護者研修会
- ・市町村が開催する研修会・保護者講演会 等

※市町村や校区のニーズに合わせて対応しています。

申込・問合せ先

所管教育局へ
※依頼文・報告書などの様式は、所管教育局のHPよりダウンロードしてください。

保育見学後の合同研修会での講話の様子 (日吉津村)

合同研修会は初めてだったが、無理のない進め方についてアドバイスをいただき、安心して研修運営ができた。

子どもの姿や校区のめざす子どもの学びがあるとわかり、幼児期の遊びの大切さがわかりました。(保護者)

我が子が夢中になって遊んでいる中に、たくさんの学びを共有し、幼児期の遊びの大切さがわかりました。(保護者)

東部

申込受付中

幼保小接続アドバイザーを派遣します

- 「幼保小連携」はどうして大切なの？ ○どのように推進していけばよいの？
- 園と小学校の合同研修会はどのように進めたらよいの？
- 架け橋期のカリキュラムはどのように作成すればよいの？ 等、数々の疑問にお答えします。

幼保小接続アドバイザーとは、

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の推進のため、園と小学校、校区や市町の研修会等で、講演・演習・指導助言を行い、各小学校区及び各市町の取組を支援します。

まずは、園と小学校がお互いを知り合う、相互理解から始めませんか。

令和5年度の研修例

- ★園と小学校の合同研修会
- ★市町村が開催する研修会
- ★園と小学校の管理職研修
- ★園の法人内研修
- ★架け橋期のカリキュラム編成委員会 …



他にも、こんな活用も…

- ★管理職による連絡協議会
 - ★園の保護者講演会
 - ★園児と児童の交流会や交流後の職員合同研修会 等
- ※市町村や校区のニーズに合わせて対応しています。

申込の流れ

1. 電話で日程連絡
2. 依頼書の提出
3. 研修会当日
4. 報告書の提出

鳥取県教育委員会事務局東部教育局

TEL:0857(20)3671 FAX: 0857(20)3673

ホームページ: <https://www.pref.tottori.lg.jp/1-kyouiku/>

※依頼文・報告書などの様式はHPからダウンロードできます。

C4HまたはFAXで申し込みください。

中部

幼保小接続アドバイザーと一緒に考えてみませんか？ ～幼保小の円滑な接続に向けた取組を応援～

- 園と小学校がつながって
 - ・接続カリキュラムから架け橋期のカリキュラムへの発展のための研修・会議
 - ・互異性のある交流会の計画（協議内容の相談）
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫
 - ・合同職員研修、保護者研修会の計画の相談、アドバイス等
- 保育担当と教育委員会がつながって
 - ・園と小学校を支える取組の相談等

幼保小接続アドバイザーを派遣して、様々な取組を支援します。



申込み・問合せ先

鳥取県教育委員会事務局 中部教育局

幼児教育担当 0858-23-3253

依頼文・報告書などの様式は、所管教育局のHPよりダウンロードしてください。

西部

架け橋アドバイザー

幼保小接続アドバイザーを派遣します

- 園児・児童の交流や職員との交流の振り返り、協議の進め方について知りたい
- アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを見直す視点は？
- 「接続カリキュラム」と「架け橋期のカリキュラム」はどう違うの？ どう構築していくの？

私たちが一緒に考えます！！

【藤原厚子アドバイザー】 【川上さつきアドバイザー】

幼保小接続アドバイザー（架け橋アドバイザー）として関係者の方々をお手伝いできればと考えています。

実際の子どもの姿を観たり、様々な機会に対話を深めたりして、お互いの教育・保育を理解することが、「架け橋期のカリキュラム」の編成につながっていきます。

- (例) ☆園と小学校の合同研修会
- ☆市町村が開催する研修会
- ☆管理職の連絡協議会
- ☆園児と児童の交流
- 職員の見学・授業見学後の研修
- ☆「架け橋のカリキュラム」開発会議

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる 重要な2年間…『架け橋期』



申込み 問い合わせ先

鳥取県教育委員会事務局西部教育局

TEL: 0854-9-31-9773

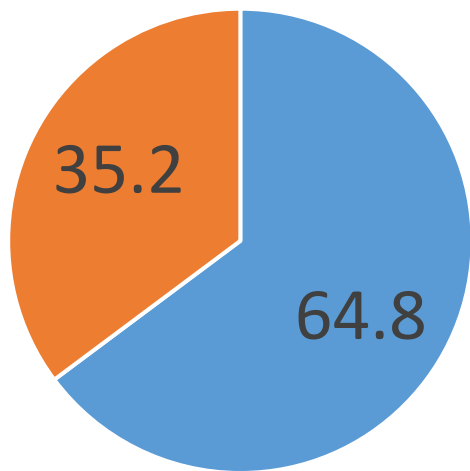
ホームページ: <https://www.pref.tottori.lg.jp/seibukyoiku/>

※依頼文・報告書は西部教育局HPにある様式をダウンロードしてください。

2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

③スタートカリキュラムの 校区の園との連携・協議

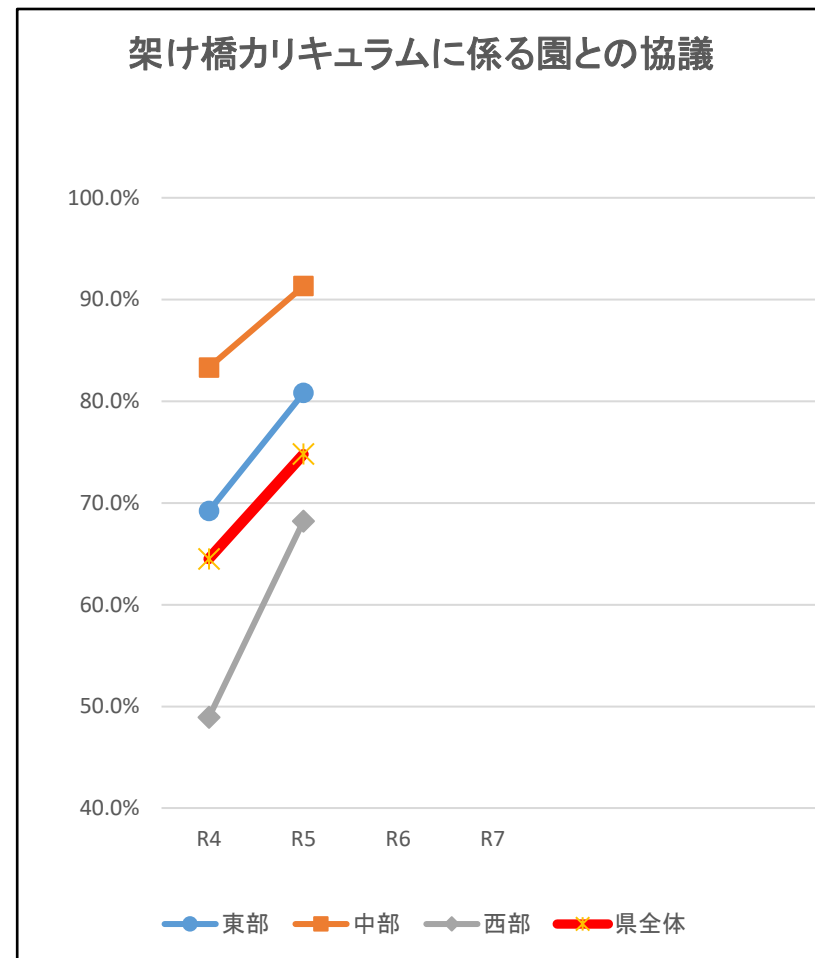
スタートカリキュラムについて
校区の園と連携・協議していますか？



■ 連携している ■ 連携していない

令和3年度 幼児教育調査

④架け橋期のカリキュラムに 係る園との協議



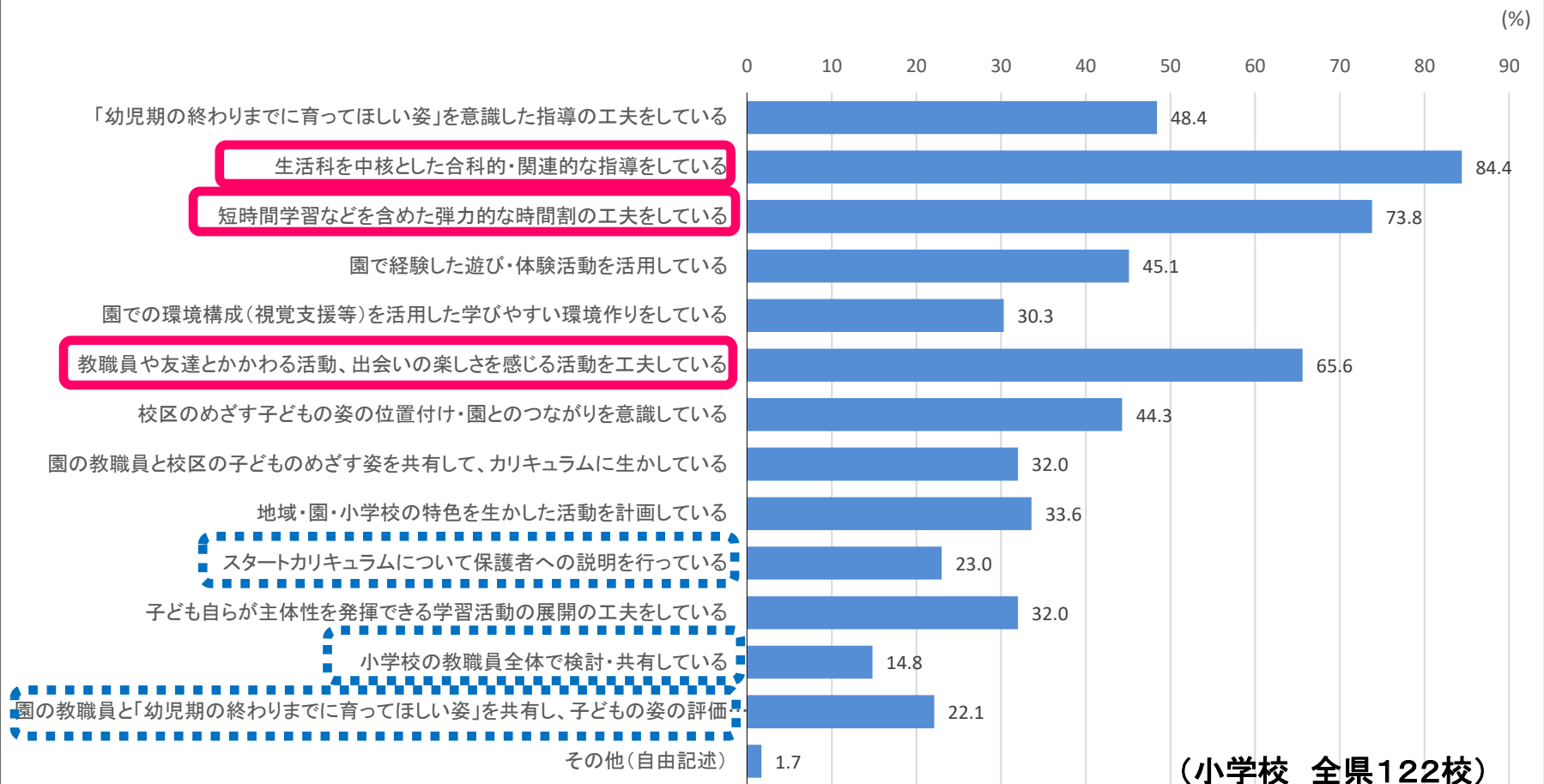
令和5年度 学校教育実施状況調査(小学校)

2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

スタートカリキュラム編成のポイント

令和3年度 幼児教育調査

スタートカリキュラムを編成する際に大切にしていること



2 鳥取県の幼保小連携・接続の状況

連続性・一貫性のあるカリキュラム

安心 自立

成長



接続カリキュラム

園で

アプローチカリキュラム

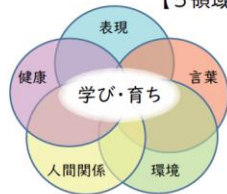
～編成・実施のポイント～

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに編成
- 5歳児の年間指導計画とのつながりを考えて編成
- アプローチカリキュラムについて保護者への説明を実施
- 園職員全体で検討・共有

～内容をチェック～

- 校区のめざす子どもの姿の位置付け・小学校等とのつながりを意識
- より自主的・主体的な遊びとなるよう意識
- 意図的に組み入れた協同的な遊び・体験を計画
- 文字や数等に興味・関心をもつ環境の構成
- 小学校等に期待をもち、自信をもつことにつながる遊び・体験を計画
- 小学生との交流活動等の設定
- 地域・園・小学校等の特色を生かした活動を計画

遊びを通しての総合的な指導
【5領域】



園と小学校等でともに

どう編成する？

接続カリキュラム J

語ろう！

Step1

子どもたちのこと

実際の子どもたちの様子を一緒に見る機会をもちましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に語り合しましょう。

知ろう！

Step2

園のこと・学校のこと

それぞれに尊重すべき違いがあります。一方が他方に合わせるというものではありません。互いの教育内容・大切にしている指導や支援を知ることが大切です。

相談しよう！

Step3

めざす子ども像

市町村・校区でどんな子どもを育てていこうとするのか語り合い、定めましょう。この姿をめざして園・小学校等それぞれの取組を考えます。

つなげよう！

Step4

育みたい力(資質・能力)

園と小学校等が共通の視点をもち、共通項目を設定することで、指導内容や指導・支援が、具体的にかつ系統的につながります。

資質・能力をつなぐ

小学校等で

スタートカリキュラム

～編成・実施のポイント～

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに編成
- 1年生の年間指導計画とのつながりを考えて編成
- スタートカリキュラムについて保護者への説明を実施
- 教職員全体で検討・共有

～内容をチェック～

- 校区のめざす子どもの姿の位置付け・園とのつながりを意識
- 主体性を発揮できる学習活動の展開
- 生活科を中核とした合科的・関連的な指導
- 弾力的な時間割の工夫
- 園で経験した遊び・体験活動を活用
- 園での環境構成(視覚支援等)を活用した学びやすい環境づくり
- 教職員や友達と関わり、出会いの楽しさを感じる活動の工夫
- 地域・園・小学校等の特色を生かした活動を計画

教科等を通しての指導

低学年では、各教科等の指導において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連に考慮します。



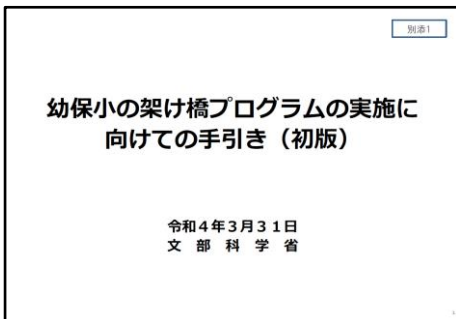
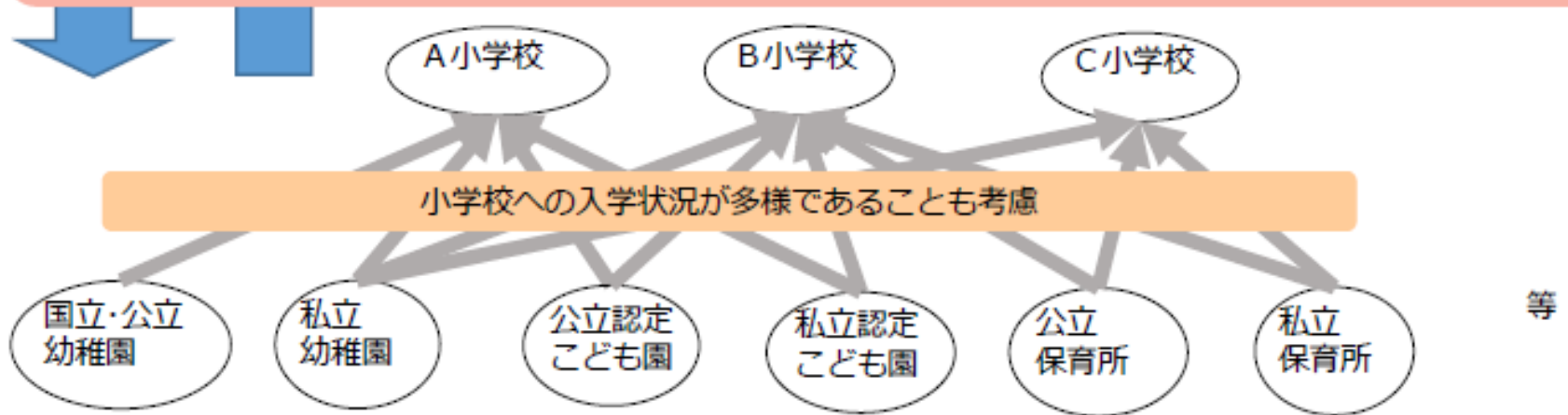
【幼保小連携・接続】
お役立ち情報

幼保小の架け橋プログラム

○5歳児～小学校1年生の2年間を「架け橋期」と位置づけ

地域における体制のイメージ

架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化
持続的・発展的に実施する組織体制の構築



「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」
令和4年月31日文部科学省(P13)

架け橋期のカリキュラムのイメージ

- 架け橋期のカリキュラムについては、幼保小の先生が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりとし、**育成を目指す資質・能力を視野に入れたら策定**できるよう工夫する。そして、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。
- 自治体や園・小学校での工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通の視点を整理して示すことが考えられる。

	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像				
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等				
④指導上の配慮事項	先生の関わり 子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり(※)	<p>5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の視点から考えてみよう ・ 既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう） ・ 既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう） 		
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				
...				

3 鳥取県の幼保小連携・接続の今後に向けて

鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント

育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携・接続

～鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント～

令和5年6月

架け橋期(5歳児4月から小学校1年生3月まで)の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。子どもたちの育ちと学びのつながりを園と小学校等の先生と一緒に考えていきましょう。

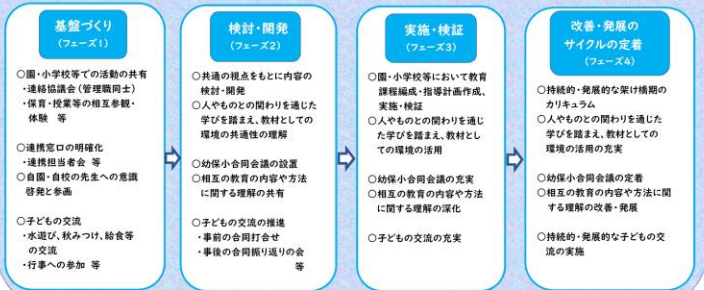


1 「架け橋期のカリキュラム」の進め方確かめよう!



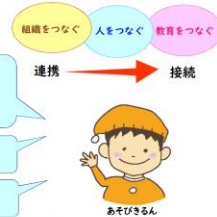
園・小学校等での具体化の進め方(各フェーズ)のイメージ

※手引きP.15, 34, 48
※鳥取県幼保小連携ハンドブック「育ちと学びをつなぐ」P.9~14 参照



3 「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発していこう!

- ①ここからスタート!
「期待する子ども像(めざす子ども像)」を園と小学校等で共有しよう。
- ②園と小学校等が共通の視点で話し合い、互いに理解し合おう。
- ③話し合ったことを「架け橋期のカリキュラム」として可視化しよう。



2 「架け橋期のカリキュラム」を進める過程で大切にしたいことを共通理解しよう!

子どもの育ち(姿)を中心に対話しよう!

語ろう! 子どもたちのこと

実際の子どもの様子と一緒に見る機会をもちましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点を語り合ひましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿です。



相談しよう! 期待する子ども像(めざす子ども像)

市町村・校区でどんな子どもを育てたいのか語り合ひ、定めましょう。この姿をめざして園・小学校等でそれぞれの取組を考えます。



知ろう! 園のこと・学校のこと

それぞれに尊重すべき違いがあります。一方が他方に合わせるというものではありません。互いの教育内容・大切にしている指導や支援を知ることが大切です。



つなげよう! 育みたい資質・能力

園と小学校等が共通の視点について話し合うことで、指導内容や指導・支援が、具体的かつ系統的につながります。

連続性・一貫性のあるカリキュラムに ~園と小学校等とともに~ 互いに学び合ひ、カリキュラム・教育方法の改善を進めていきましょう。

		5歳児												小学校1年生											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
共通の視点として考えられる項目(例)	期待する子ども像(めざす子ども像)	架け橋期の2年間を通して、どのような子どもを育てたいか。※手引きP.24,25 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにし、保育や学習、生活の場面から具体的な子どもの姿をあげて話し合う。																							
育みたい資質・能力	期待する子ども像をどのような「育みたい資質・能力」で捉えるのか。 「期待する子ども像」を具体的な子どもの姿であって、「育みたい資質・能力」で整理する。																								
遊びや学びのプロセス	期待する子ども像の育成に向けて、子どもの姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。※手引きP.26,36~38 「期待する子ども像」に近づく具体的な事例を出し語り合うことで、お互いの「遊びや学びのプロセス」について理解し、教育・保育方法について見直す。																								
園で展開される活動(小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等)	期待する子ども像の育成に向けて、園の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。※手引きP.27,28,39~42 園 : 小学校以降の生活や学習を見通した幼児教育の工夫 小学校等 : 園での遊びや生活を踏まえた小学校教育の工夫 スタートカリキュラムによる生活科を中心とした各教科等の総合的・関連的な指導の工夫 園と小学校等 : 共通に充実をめざす活動や体験の共有																								
指導上の配慮事項	子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに創造する、多様な子ども一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくり、といった視点は共通していることを踏まえ、各施設段階での先生の関わりや役割について捉える。※手引きP.43,44 遊びや学びのプロセスを深めるため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか。※手引きP.29 子どもにとっての教育的価値の視点から、その共通性の理解を深め、教材としての環境づくりを考える。※手引きP.45,46																								
子どもの交流	流を通した学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子ども同士の交流などをどのように位置付けるのか。※手引きP.30 年間計画に子ども同士の交流を位置付け、交流する対象の年齢・学年、交流時期、交流のねらい等を共通理解する。																								
職員の交流	園と小学校等の先生同士の交流(連絡協議会・合同研修会・交流の振り返りの会等)を年間計画に位置付け、子どもの育ちを共有する。																								
家庭や地域との連携	期待する子ども像について家庭や地域と共有し、どのように連携協働していくのか。※手引きP.30																								
評価	園と小学校等の先生が実践と一緒に振り返り、評価する。																								

「架け橋期のカリキュラム」は、幼保小の先生が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫しましょう。※手引きP.21

※手引き...幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 参照 (令和4年3月31日 文部科学省)



詳しくは、文部科学省のホームページへ! 鳥取県の架け橋プログラム 検索



子どもの育ち(姿)を中心に**対話**しよう!



- ◎幼保小の教職員の互いの保育・教育に対する相互理解
- ◎幼保小の教育のつながりを確保する各カリキュラムの編成・実施・小学校区等での共有
- ◎地域の実情に応じた架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)のカリキュラムの検討・開発等の取組の推進

